

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ポプラ	評価実施年月日	平成 年 月 日 ~ 月 日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	佐々木 由香子	記録年月日	平成20 年2 月25 日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	介護理念・運営理念を独自に掲げ、日々努力した支援を行っている。事業所がどのように取り組みをしているか、わかりやすく廊下等、誰もが見やすいところに掲示している。		運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており町内会活動の参加や回覧板にポブラ通信を発行し情報提供をおこなっている。
2	2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は理念を元に、当日の朝にミニカンファを実施し、日常生活活動の重視に取り組んでいる。		日常生活活動のほか個人に合わせたケアに取り組んでいる。(散歩・ドライブ・外食・釣り・暮など)
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所は利用者や家族が地域の中で、住みやすい環境づくりを行い理念の浸透に取り組んでいる		町内行事への積極的な参加や、回覧板に通信を掲載していく事で利用者、家族、地域の人々に理解して貰えよう取り組んでいる。
2.地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方と会ったときには必ず挨拶をかわし、自然と双方が気軽に声かけ出来るようになって来ているので、更に努力し日常的な付き合いができるよう取り組んでいる。		挨拶や声かけなどの継続にて、近隣のかたと交流を深め、気軽に立ち寄って頂けるよう交流の取り組みを図っている。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域との付き合いに関しては、事業所として孤立せず、地域の一員として、地域行事に参加をし、交流を深める活動に取り組んでいる。		地域役員や地域の方と話し合いの機会を増やし、ホームに気軽に立ち寄ってもらえよう取り組んでいる。
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所の力を出来る限り地域へ貢献し、利用者への支援を基盤に職員、町内会で話し合い、暮らしに役に立てよう取り組みをしている。		事業所として現段階での気軽な行き来を行い、町内や職員を交え利用者が安心して暮らせるように役にたてるよう努めている。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員全員にて自己評価や外部評価の認識を正確にするとともに、連携にて具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>前年度の改善点におよぶ部分で、速やかに改善できることをし、地域等の密着においては、更なる努力にて取り組みを図っている事で、地域と事業所双方が円滑になれてきている。</p>
8	5	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、利用者、地域、町内会役員を含め、現状のあり方や報告をかねながら、意見交換してサービスの向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議にて職員が何時でも会議の内容や取り組みについて、疑問点などがあれば気軽に話し合える環境に取り組んでいる。</p>
9	6	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>事業所は運営推進会議など以外にも何か取り組みをしていきたい事などは、相談などをしに行き来をしたりしながら、サービスの向上に取り組んでいる。</p>		<p>市町村との繋がりをもちながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度については、研修等で学ぶ機会はあるが、職員はなかなか学ぶ機会が少ない為、職員全員が統一して学べるよう支援している。</p>		<p>研修や事業所、管理者が勉強会を開催しているため、詳しい内容にまでは行っていない為、全員が把握出来るよう取り組みをしていく。</p>
11		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者を始め、全職員は虐待防止について、研修の他、職員会議やニュースを通じて虐待が有ってはならない事などの理解を深め、見過ごしの無い様防止に努めている。</p>		<p>職員のストレス等からも起き得る事なので、休憩時間などを活用しコミュニケーションを図り、また、個人的に心に抱えている問題が無いが、リラックスできる状態を作り常に虐待にならないよう取り組みをしている。</p>
4. 理念を実践するための体制					
12		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関する説明と納得は、入居する以前に十分に来訪していただいたり、利用者や家族と面談を重ねながら、時間をかけ本当に理解・納得された上で契約をしている。</p>		<p>御家族との納得のいくまでの、来訪や訪問、又、利用者とも数回見慣れていたいただいて、安心されてからの入居としている。契約の内容にあたっては、後でトラブルにならないよう十分に理解・納得されたからの契約に取り組んでいる。</p>

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が不満や問題を抱えている様子が見られる時など、速やかに一対一で話し合いをする場を設け、問題を取り除くと同時に、職員全員に利用者の状況を反映させている。		利用者からの不満などは今のところ出ていないため、今後も現在と同様に取り組みをして行く。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、ポプラ便りを発行し、事業所での利用者の日常生活状況などを、お知らせすると共に、面会時に詳しい最近の状態、金銭管理を報告し内容確認をして戴いている。		お便り、面会時で十分なコミュニケーションをご家族と図っている。家族会などを開催し、事業所から利用者やご家族への意向などを取り入れ、報告をし合えるよう取り組みをしてゆく。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が意見や不満、苦情を管理者やホーム側へ遠慮なく申し出る事ができるよう、ご意見箱を設置している。		開設時から、ご意見箱などに不満や苦情の申し出はない。常に面会時はご家族と話し合いをしており、その都度、気軽に話せる環境作りに取り組んでいる。
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者自身が管理者を兼ねているため、現場の状況を常に把握しており職員の意見や提案を聞く事ができている。		休憩時間や出勤前後の空いた時間などにおいても、気軽に声をかけてくださり、意見や問題点があった場合は、相談する場を設け反映させてくれている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者やご家族の状況の変化に柔軟な対応ができるよう、会議やカンファレンスを行い、必要に応じて職員を確保する話し合いに努めている。		入居者一人ひとりの状態を職員全員が確認しあい、状況に応じて勤務の調整を図っている。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者が現場に携わっており、利用者と職員の係わりを非常に重視しているため、職員の異動を必要最小限に留めることで利用者への配慮としている。		現在の職員と、利用者の信頼関係において馴染みができているため、今後も利用者への影響を防ぐよう取り組みをしていく。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修、職員会議、勉強会などに参加し、内容報告やレポート提出により、情報伝達を行っている。また、当事業所にて、職員が入居者になって実施体験をするなど、育成に勤しんでいる。		いろいろなレベルの研修が、開催されていたら、更なる職員の質の向上を図り、適切な介助ができるよう取り組んでゆく。
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営者および管理者などは、同業者との交流を図り、情報交換を通してサービスの質の向上に結びつく取り組みを行っている。		同業者との交流を更に深め、尚一層のスキルUPが叶うよう、取り組みを進めてゆく。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者自身が現場に参加しているので、職員が抱えるストレスや問題点などの把握や話し合える場が設けられている。また、職員同士のレクリエーションとして、カラオケや食事会など、ストレス解消を目的とした交流も行っている。		ストレス解消法に、話し合うことが重要とされているため、運営者および管理者は、些細な問題であっても時間を設け、相談できる環境作りを行っている。
22		向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員のスキルUPや実績については、運営者自身が現場に従事し直接把握しており、些細な事でも直接言葉に出すなど評価を行い、各職員が更なる向上心を持てるような環境作りを行っている。		各職員が生き生きとした表情で、且つ向上心を持ちながら支援に取り組んでゆけるような環境作りにとりくんでいる。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居する大半の方が、これから長く暮らす場所としての意識が無い為、安心して過ごせる場所と認識して頂けるよう心がけている。自覚の有る方には、当初は遠慮がちなので日々対話を多く取り入れながら、希望されていた事ができる機会を作れる環境に努力している。		入居時より本人の経歴などを参照しながら、ゆっくりと時間をかけ不安、困っていることを見極めていくよう常に観察し、本人との信頼関係作りに取り組んでいる。
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	時間をかけながら、御家族から利用者のお話や御家族の苦労話を聞くとともに、心を開いて頂くことで信頼関係が築きあげられるよう努力している。		見学だけでは無く、利用者、御家族と一緒に何度も来訪・訪問していくことにより、生活を実感して頂きたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームでの内容や現状も含めた説明の上、他に必要なサービスや家族援助など、必要事項に対するサービス利用に努めている。		初期対応に求められる意向や支援希望については、家族との話し合いを通して交流を深め、サービスに繋がる対応に取り組んでいる。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が他の入居者の方々と一緒にお茶を飲んで戴いたり、レクリエーションに参加して戴く回数を徐々に増やしてゆき、安心して場の雰囲気に馴染んでゆけるよう、家族と相談をしながら工夫を行っている。		気軽に自室や共同空間を行き来できる雰囲気作りを行い、本人が安心してサービスを受け入れられるよう取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の身についた生活習慣について、意思を尊重しながら聞き出し、日々の生活活動へ徐々に反映させると共に、ホーム内の生活において支えあえる関係作りを行っている。		入居者の方ができることや得意とすることを、気軽に発言できるような環境作りに取り組んでゆく。
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族へ面会の必要性を伝えたり、時にはご家族との外出などをお願いしている。また、ホーム内行事などへの参加もお願いし、本人と共に喜怒哀楽を共有できる関係作りを行っている。		ホーム内での行事やレクリエーション、または外出などの内容と必要性を説明しご理解戴いたうえ、ご家族も参加して戴けるよう呼びかけている。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	現在の状況や状態を把握している職員が、ご家族へ対応方法をアドバイスしたり、日々の記録を読んで戴くことで、本人とのよりよい関係作りができるよう支援している。		面会時、居室などで時間のある限りゆっくりと過ごして戴き、面会が困難な状況においては、職員が立会い円滑な面会時間を過ごせるよう取り組んでいる。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係継続に努めている。外出が困難な場合においては、手紙や電話を活用し可能な限り希望を叶え関係が途切れないよう支援に努めている。		本人やご家族においては、認知症にあることを馴染みの人に知られたくない場合や、既に関係が途切れている場合があるので、関係継続における支援活動の際は事前に相談や話し合いを行うよう努めている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に職員が間に立ち、入居者同士の関わり合いや支え合いが円滑に行えるよう支援している。		共同作業やレクリエーションなどの際、入居者同士のトラブルが発生しないよう、介護レベルや身体状況などを考慮した役割分担や座席の位置を行い、快適に過ごせるよう支援している。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院や転居などでホームから退去された方へのお見舞いや、ご家族へのご挨拶に何うなど、関係が断ち切れることのないよう努めている。		サービス利用が終了しても手紙や電話などを活用し、本人およびご家族との関係が続けられるよう努力している。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりより収集した情報をもとに、表情などを観察しながら本人に意志確認をおこなっている。各個人の意志の表し方も違う為あくまでも本人本位に行っている。		自室で過ごされるのは自由であるが、臥床に繋がると認知の進行や身体機能低下となりやすい為、お茶やレクリエーションの参加に無理なく声かけをしている。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしの中で施設や独居暮らしの方は、後家族が状況を把握されていない場合が多く、現在の状況を把握するとともに、御本人との話を深めながら一人ひとりに合ったサービスに取り組んでいる。		一人ひとりとの交流を深め、本人の生活歴を聞き出し、馴染みの暮らし等を取り入れたサービスの支援を取り入れるよう努めている。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりに対応したアセスメント、モニタリングを多く活用。初期状態とは違う事も多いので、当日にアセスメントをした上で体調、精神状態を把握し支援を行っている。		自己決定できる方においては自由に過ごして頂くが、状況においては認知の進行を早める生活になる事も有りうる為、多様な声かけにて身体を動かして頂いけるよう支援し、自己決定が困難な場合は身体のリズムを図りながら意志の確認を行い誘導をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者がより快適な暮らしができるよう、カンファレンス・勉強会等で介護支援専門員のアドバイスを貰いながら、課題と今後の支援について取り組みをしている。		各利用者一人ひとりの担当者が利用者の立場にたって、暮らし方の提案を図っている。又、勉強会において職員全員が利用者に対するケアプランを作成し十分な支援が行えるよう取り組みをしている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の身体・心身状態に変化が生じた場合は速やかに職員・介護支援専門員間で相談し、適切な監理のもとに早期にプランの変更を立て、家族に連絡や報告にてご理解を得られる事で現状に即した支援を行っている。		各利用者で心身や身体状況の変化に随時対応するため、介護支援専門員の監理のもと、ケアプランの見直しをおこなっている。
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の日常生活の記録を個別化しており、職員が気づいた点や工夫した方が良いのではないかと感じた事は記録へ記入し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		利用者の身体、精神面における変化や特変事項、体調管理などを含めた記録を介護計画に取り入れている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービスやショートステイは開設より3年以上の実績が必要な為実施されていないが、町内会で取り組んでいる「ふれあいサロン」に集まる方達の活動の場を広げて頂き利用者にとっても町内に馴染んで頂くための一環としてホームにて気軽にお茶会・お喋りが出来るよう交流を図っている。		開設したばかりなので、なかなかスムーズに事が運ばれない時もあるが、運営推進会議などで町内の方々が積極的に協力してくださっているため日程を決め取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年に2回実施されている、避難訓練など緊急蘇生の講習を町内の方にも参加して頂き、必要に応じた際の協力も得られている。		運営推進会議で町内会より、町内の方々によるボランティアの協力が望ましいと話され、今後利用者の話相手や趣味の相手をしてくださる等の協力体制作りを行っている。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町内、区内、市内で行われているサークルやサービス等の利用を調べたがグループホームに入居中である事や認知症である事が利用のさまたげになる事が多々あり利用出来ていない。		短発的なものも含め、視点を変えたところからも利用できるサービスやサークルを探し社会参加に取り組みをしていきたい。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護や社会参加についての相談を必要に応じて地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターに伺ったり、会議時の議題として権利擁護やケアマネジメントについて相談などが出来るよう交流を図っている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携する病院の医師や看護師に日常面での状況や生活経過報告書にて、利用者の体調面・精神面での支援を行っている。		利用者が安心して受診・往診を受けられるよう、職員が間に入り、医師や看護師に気軽に相談できる環境づくりや、日常生活での管理においても職員が医師、看護師と気軽に相談できる状態にある。
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携する認証症専門クリニックの医師やソーシャルワーカーに日常や生活経過を報告し、体調面・精神面での支援をしている。		利用者に変化が生じたりした場合には気軽に医師やソーシャルワーカーと相談が出来る。
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携する病院の看護師や非常勤の看護職員に、日常や生活経過を報告し、体調面・精神面での支援をしている。		利用者をよく理解している看護師と連携が上手く関わっている為今後も更なる日常の健康管理などに取り組んで行く。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、御家族と相談の上、本人の状況説明などをし、早期退院及び退院後について情報交換を連携している。		利用者が安心して入院生活を送れるよう職員が関わりながら環境を整え、早期退院へと繋がるよう取り組みをしている。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居当初に説明をしてご家族に理解を頂いている。高齢で重度の障害が有る場合、当初からの御家族希望を取り入れ体調の変化や医師の意見もふまへ何度も話し合いを行っている。		重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に説明をしているが、医療側に本人の相談をしながら御家族に安心して頂けるよう全員が方針の共有を図れるよう取り組みをしていく。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の重度化や終末期に向けた対応を職員・家族と話し合い、事業所の「出来ること・できないこと」を見極め、変化に備え検討や準備を医師・看護師を含め行う方針である。		終末期に関わる事に関しては医療とも話はしているが、具体的な書面化に結びついていないため速やかに終末期をチームワークにて支援できるよう取り組んでいく方針である。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住替え時のダメージ防止に、家族・本人に対応していくケアが十分な話し合いや情報交換にて最小限にする事に努めながら、ダメージが起きないような工夫をしている。		家族より本人に対する希望や家族の状況などを十分に話し合い、本人が望んでいること、今後の支援についてホーム内での生活記録等を提供し本人のダメージを防ぐ事に取り組んでいる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの状況に応じた対応を実施している。また、プライバシーを損ねる事のないように、周囲に注意を払っている。		聴覚障害がある場合は、本人の耳元にて声かけをするも、なかなか意思の疎通が図れない事もあるので、見やすい字でカードに文章化する事で理解が出来るかを検討しており、取り組んで行く意向である。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	基本的に利用者の表情を見極めて、職員から働きかけを図る他、自己決定できる方には、納得しながら暮らせるように支援を行っている。		状況の把握や理解の難しい方で有っても、理由なく支援をされる事は不快な事で精神不安を招くことにも繋がる為、必ず説明や理解をして頂けるよう心がけて誘導に取り組んでいる。
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望を伺い支援するようにしている。		本人の希望する事が本人にとって、ゆったりと安心して暮らせる事であれば、本人の意思を尊重し自己決定において自由に過ごして頂いているが、職員は常に状況を見極め良い方向へ向いていないと感じた場合は職員が速やかに相談し本人に理解を得るなど工夫をしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人が何時までも身だしなみやおしゃれに興味があるかぎり希望に叶えられるよう、家族にも相談をし支援に努めている。		利用者の中でも介護度に違いがあるため、自己決定出来る方には職員同行の元で洋服や必要な物を選んで頂き楽しんで貰い、不可の方であっても、外出出来る状態であれば、気分転換しながら興味をもってもらえるよう取り組んでいる。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は利用者の出来る作業を把握し、一人ひとりにあった役割分担をし、食事が楽しみに繋がるよう配膳・片付けなどを職員と共にする事で更に馴染みの関係となり、食事をたのしめるよう取り組んでおる。		家事を好む利用者には職員・他利用者と一緒に作業を行う事でコミュニケーションが図れ、より一層活動と繋がり生きがいとなるよう支援に努めている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ等や本人の嗜好があり自己管理の出来る方は自室にて自由にして頂いているが、お酒、タバコに関しては職員の管理(所定の場)のもとで楽しめるよう支援をしている。		日に1~2度、おやつ時間が有り職員を交えお喋りをし交流を図るとともに、食事にも制限がなく(食事療法があるかた以外)体調管理をしながら、また硬いもの、柔らかいものへと好みも違うので一人ひとりが楽しめるよう支援している。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄介助の方は定時を基本とし、個別の誘導にて失敗を減らし、気持ちよく、衛生を保ち排泄できるよう支援している。		排泄が著しく困難な方は、時間や様子を観察し排泄が出来るまで、場所移動、時間を少しおく、介助の職員を変えて安心して排泄ができるよう誘導を行っている。
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	不可能な時間帯も有る為、全ての希望を受け入れる事は難しいが、自立されている方は希望があれば可能な時間に入浴を楽しめるよう取り組んでいる。		ほぼ全員が見守りと介助の必要性があるが、出来るかぎり考慮していく方法を思案している
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活上大きな支障が無いようであれば、休息は自由にとって頂いている。長く休まれる事も無いが、自己決定が困難の方には身体状況をふくみ、分割睡眠にて休息して頂いている。それぞれの状態に応じて声かけにて、適度な時間でおきていただいている。		意欲が失われたり、生活のリズム、体調をそこねる事の無い様、個人の意思を尊重した上で、興味を持って頂けるような声かけを心がけし取り組んでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の意思を確認したうえで、生活リハビリや共同レクリエーション等を実施し、各個人に役割りをもって頂くことで意欲をもたれる方、消極的な方など、それぞれの意思を無にしないよう支援している。		共同生活や共同作業が不可能な方も共に暮らしているため、双方の調整を考慮し職員とともに出来るだけ一緒に過ごして頂けるよう取り組んでいる。
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族とも話し合い、自立されている方には出来るだけ自分でお金を所持して頂いている(多額ではない)支払いなどは個人の力にあわせ自力にて清算が行えるよう支援している。		支払いの出来ない方にも、生活に必要な物などは、出来る範囲で自分の買い物として職員とお店に行き購入するような環境に取り組んでいる。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの状態や状況に応じて、予定を立て職員が必ず同行し希望に応じた外出への対応に取り組んでいる。		夏季の場合においては日に1度以上の散歩、買い物等をする機会は有るが、冬季時は声かけにて外出を望む方には、一緒に出かける事は出来るが、中には足元の不安や寒さに、気おくれされる方もおられるので、資料館等の施設見学を計画している。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事の中でも、普段行けないところに個別、ホーム全体として観楓会、観桜会、紅葉、お祭り等を実施し、家族とともに出かけられる機会の環境づくりを行っている。		個別的な外出は、あらかじめ予定をたて、釣り・お墓参り・昔住んだ事のある思い出の場所など、職員同行し日帰りにて対応している。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な限り、手紙や電話などの支援をしている。		自立されていて希望があれば自由に電話を使用して頂き、状況に応じて自室にて気兼ねなく会話されるよう支援している。失認の強い方は家族と相談のもと、指定されたところに職員から掛けさせて頂き、本人に取り次ぎ本人の気持ちがすむよう支援している。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室にて気兼ねなく、ゆっくりと過ごして頂いている。又何時でも訪問できる環境としている為、皆さん自由に訪問されています。		自室にポットを用意されている方や(自己管理出来る方)ホームからお茶をお出しする際、ゆっくりと過ごして頂けるよう状況を見極め、テーブル・お茶菓子・お茶の入れ替えなどに気配りしている。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に最大限拘束はおこなわない事としている。		身体的な危険が伴う場合のみ、家族と相談し了解を得た上で書面化し行う事もありえる。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者、及び全職員が居室や玄関には、基本的に日中は鍵をかけない事としている。		徘徊や転倒リスクの高い方が多い為、夜間帯に職員が一人になるときに施錠はしている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、安全確認を行い昼夜通して利用者の所在を把握している。</p>		<p>夜間帯を除き、日昼に自室にて長い時間過ごされている方には、時々様子の観察をし体調の管理を行うほか、時間帯を考慮し声かけをしている。</p>
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの介護度が違う為、危険となる物品にも違いが出来る為、状況に応じて危険に繋がらないよう配慮している。あくまでも見守りと誘導にて危険防止に取り組んでいる。</p>		<p>薬剤や刃物等においては使用后必ず職員全員が鍵をかけて安全を考慮している。</p>
69		<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>あくまでも見守り重視の上で事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>個人の薬に関しては、職員同士(正社員)での確認機関を設け、数度の確認になるよう工夫をし事故防止に取り組んでいる。</p>
70		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時に職員がすぐ対応できるようマニュアルを作成し、見やすい所に掲示している。又、消防での心肺蘇生法もホームで行い職員が利用者の急変に対応できるよう取り組んでいる。</p>		<p>赤十字で行っている、救急員養成講習に順次参加し、緊急の対応がなされるよう取り組んでいる。</p>
71	27	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>運営推進会議に町内会の方々にも参加して頂き、災害時の対応に関しては近隣の方の協力も得られている。ホームとしても町内との繋がりを、更に深めていけるよう働きかけ取り組んでいる。</p>		<p>短期目標として町内会で希望される事柄についての協力(ごみ拾い・火の用心・花植え・運動会への見学など)長期目標としては、認知症に対する地域での相談を受けられるように町内での認識を広げて行く方針である。</p>
72		<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>予測される時点での説明と直面した時点での説明で最善の方法を話し合いしている。</p>		<p>いくつかの方針を示し、家族の希望を取り入れ、本人・家族にとって最善と思われる事を考慮し行っている。</p>

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>ケア記録に記入してある事の重要性を話し合い、小さな記述を見落とさないようにし、体調の変化や早期発見に努めている。</p>		<p>日々の血圧、脈拍、熱、食事・水分量、食べ方を観察し、または本人の訴えも聞き入れながら体調管理に努めながら早期発見に取り組んでいる。</p>
74		<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>多種にわたる為安全なる理解は難しいが一人ひとりの薬を把握しよう努めている。</p>		<p>変更時の連絡や理由の伝達を行い職員全員が把握出来るよう情報伝達に努めている。受診時に変更があった際には、日誌や送りにて速やかに情報を共有している。</p>
75		<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>体調と排泄のリズムを把握し対応している。排便を促しやすい食材を取り入れるようにし、身体を動かす工夫にも取り組んでいる。</p>		<p>栄養担当者がメニューの食材を吟味し便秘予防に繋がる工夫をし、レクリエーション担当には身体を動かす為の働きかけを取り入れている。</p>
76		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>モーニングケア、食後の口腔ケア等は一人ひとり確認し、力に応じて出来る事は自力でしてもらい、仕上げに支援をしている。</p>		<p>歯科医の助言をもとに、個別の対応を行っている。(歯ブラシが届かない部分や義歯の洗い残し)</p>
77	28	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>基本的に好みを聞いた上で、すすめるものに多少の違いは出てきている場合もあるが、1日に必要な水分量の確保に努めている。</p>		<p>個人差もあるが1度の水分量を基本として、食事中や中間時、1日を通して平均した水分を取り入れるようにしている。</p>
78		<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防担当者だけでなく、それぞれの担当者からみたりリスクを常に検討し、職員全員で知識をとりいれ感染に対しての予防に取り組んでいる。</p>		<p>排泄前後、食事前、外出時のうがい、手洗い・消毒を定時の他にも状態に応じて予防に取り組んでいる。</p>

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>通常として十分な洗浄を心がけ、使用した物の消毒を実施している。</p>		<p>食中毒警報が出た期間は特にブリーチにて、毎回使用した食器や布巾等のつけ込みを行うとともにテーブル・椅子・床等もブリーチを使用し衛生管理をおこなっている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>出来るだけ普通の住宅と同じようにしながらも、家族・近隣の人が見た時に、温かみを感じたり、明るい雰囲気ができるよう工夫をしている。</p>		<p>春先からは少しでは有るがガーデニングをし色とりどりの花を植え、秋頃からはイルミネーションにて飾りをつけ、親しみやすい環境に工夫をし安心して出入りが出来るよう取り組みをしている。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リスクマネジメントと癒しのバランスを考慮し、また、ホーム内でも季節感を持てるよう居心地よく暮らせるように環境の提供をしている。</p>		<p>介護度の違いにより利用者全員に同じ居心地を感じて頂く事は困難で有っても、出来る限り意見を取り入れ住みやすい安全な環境である事を基本にきせつかんを取り入れている。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>大勢で楽しめる場所と気の合った少人数で、ゆったりと寛げるよう、又は一人でのんびり過ごす事の出来る居場所の工夫をしている。</p>		<p>TVの周りではTVを見ながら寛げるよう、ダイニングではゲーム・将棋など趣味をいかして頂き、静かに本を読んだり過ごしたいなど、と利用者が思いのまま活用できる場所の設置をしている。</p>
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が見慣れていたり、馴染まれているものを入居時に自宅より、持ってきて頂き安心して本人が過ごせるように、家族にも相談し、工夫をしている。</p>		<p>一人暮らしで入居に自覚の有る方は、使い慣れた物を居室に置き、我が家として過ごして頂けるよう配慮し、他利用者も同様に家族に相談しながら、古くなったものでも本人にとっては長年使用した物とし、全てを新しくする事で混乱を招く事にもなりうるので家族に御理解して頂いて居心地よく暮らせるよう取り組んでいる。</p>
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度計・湿度計により環境を整えている。本人に意志を確認しながら(職員が管理する方もいる)衣服の調整や居室の温度や空気の入替えにて換気・空調の配慮をおこなっている。</p>		<p>居室清掃時や換気の為、空気の入替えをこまめにおこなっている。気になる匂いや空気のおどみがおきないよう配慮している。</p>

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>独歩の方にも不安が無い様、出来るだけ支えがあるように工夫をし、通りやすいようにしたり工夫をしている。</p>		<p>支えの無い場所を通る時は必ず職員が見守りや誘導できるように常に安全の確保と自立した生活を送って頂けるよう取り組んでいる。</p>
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居時に情報収集した事をふまえ、入居後に、その状況に合わせて工夫をしながら安心して暮らせる環境づくりをしている。</p>		<p>一人だけの為の環境にならないよう、利用者それぞれに担当者がつき変化がある時はすぐに話し合いをし、混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるように工夫をし支援もおこなっている。</p>
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外部にベンチやテーブルを置き食事・お茶会・焼肉などをして利用者が楽しめる空間がある。</p>		<p>何時でも外にでて洗濯物を職員と干したり、草むしりをしたり、大根の漬物をつけるなど、狭いながらも楽しんだり活動できるように活用をしている。</p>

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		印欄	(該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	利用者の思いや願いをプランに取り入れ 実施されている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	ティータイム時は必ず職員と利用者が共 に過ごしたり、表情にて傍で話しかけなど をしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	家庭を重視している為一人ひとりのペー スを尊重し過ぎていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員が支援する事で交流が深まり利用者 の表情が生き生きとしている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者の行きたい所や興味のある事をプ ランに取り入れ実施されている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日々の健康管理にて利用者は安心して暮 らしている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	そのときの状況に合わせた支援をする事 で混乱や不穏にならないようあんしんして 暮らしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	状況の説明や今後の対応について話し 合っている。高齢や遠方の家族には諸手 続き等行う事で安心されている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	馴染みの方は利用者と共に過ごす事で楽 しまれている

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	協力体制が良く理解者が増え、繋がりも深まっている。
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	利用者と馴染みの関係が出来、気持ちが届くようになった事で生き生きを支援している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	御別ケアに重点をおき、個人の意志を尊重して支援している為満足していると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	来訪するたびに、ありがとうございますと話され不満の声は聞いていない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

経営者の思いが職員に伝わり、家族への抱えている気持ちにも理解が出来、本当に自分を含め、御家族も「自分も宜しく」等と言ってくれる。安心して暮らせ又自由に自分らしい生き方を考慮しているので、素晴らしいと思う。